

第5回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 議事要旨

1 日 時 平成27年9月18日(金)14時00分

2 場 所 市民会館201号室

3 出席者

- (1) 委員6名
- (2) オブザーバー(基本構想策定委託者)4名
- (3) 事務局 市民生活部長ほか4名
- (4) その他 庁内関係者6名

4 次 第

- (1) 開会
(事務局)

早速ではあるが検討委員会を始めたい。前回の検討委員会の中で建設地について、ご質問があったかと思う。9月市議会において、教育部から東小学校については移転に伴う建替えをしたいとの方向性を出されたことから、現市民会館と併せて現東小学校の跡地を建設の候補地として考えていきたいと思う。それでは、委員長に司会をお願いしたい。

- (2) 第4回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会の議事要旨
(委員長)

振り返りとしていくつか出てきたキーワードを確認していきたい。

まずは、理念。施設を整備する上で、今の建物がこのようなものだから同じように建替えようというようにはならない。苫小牧市といえども人口減の時代に突入していく中で、この施設が公共施設として、市民の生活の向上ために何ができるのか目標をしっかりと持たなければいけない。一方で、いくつかの機能が集まってくる施設ではそれぞれの提供するサービスが違ってくるので、それらを単に一つの束ねた形で考えていくのはなかなか難しい。そういった意味で基本構想を議論しながら、基本計画以降で管理運営計画を含めた様々な諸機能が、どういった連携ができるのかしっかりと積み上げていかないと良い施設ができない。

また2つ目に、現実的には予算の問題がある。イニシャルやランニングということで、建設の初期にかかる建設費と継続的に施設を管理していくための維持管理費のことであるが、コストに対して最大限パフォーマンスを発揮できるような社会的な性能を考えていかなければならない。そういった意味で、コストパフォーマンスというキーワードが新たに追加された。

3つ目に重要なこととして、民間施設ではないということである。公共施設は税金が投入されているので、全ての市民に還元されるような施設でなければならない。一部の人たちにとって享受されるものではなく、公共性を最大限に認識しなければいけない。前回の可児文化創造センターの事例が有益だったかと思う。

4つ目に機能・連携ということで、複合化・多機能の仕組みも積極的に考えていく必要がある。

5つ目に場所の性格として居心地や雰囲気作りがある。居心地というのはややハードよりの話になってしまうのだが、単に座れる場所があるから座るのではなく、どんな場所に椅子が置いてあるのか、目の前にどんな景色が広がっているのか、座りたくなるような場所をいかに提供することができるかという居心地の良さにも目を向けていきたい。

一方、雰囲気作りはソフトよりの話で、千葉県科学館ではボランティアスタッフが市民のために精力的に従事されていたり、可児文化創造センターでは職員の方々が積極的に挨拶を心がけていたりと誰もが来たいと思えるような雰囲気作りが非常に勉強になったかと思う。

さらに公共性と雰囲気作りに関係してくることなのだが、6つ目にアウトリーチという話があった。特定の方々に限らず、これまであまり音楽や劇を観ようとしてこなかった方が、何かの拍子に機会を得ることができるような仕組みづくりを提供していくということである。

最後に創作環境、例えば札幌では、シェア工房というものが流行っていたりするというお話を前回していただいたと思う。専門的なツール等はなかなか個々人で揃えるのは難しいので、それらを手軽に使うことができ、なおかつアドバイスをしていただけるような創作環境は、全国的にも非常に需要が高まってきている。受動的な施設利用に加えて、能動的な利用の環境づくりに取り組むべきではないかということで、創作環境をキーワードとして挙げさせていただいた。

以上が振り返りではあるが、これまでにキーワードとして20個ほど挙げてきたかと思う。この20個ほどを数回の検討委員会の中で積み上げてきた訳だが、検討委員会として共通の認識や価値観を持ち始めてきていると実感している。これらを踏まえて本日は、前回お話したように理想的な在り方や目標の議論も当然重要なのだが、そもそも現状がどうであるのかを認識せずに議論をしても、現実性のない内容となってしまう。そういった意味で、今回は複合検討施設がいくつかある中で、現状それらの施設がどのような取り組みをされているのか、またどういう利用のされ方をしているのかをご説明いただくという内容にしたいと考えている。

以上、議事要旨ということに絡めて前回の議論の復習とさせていただきたいと思うが、何か追加で発言しておきたいこと等はないだろうか。

(3)既存施設における活動紹介

それでは、次第3に進んでいきたいと思う。労働福祉センター、交通安全センター、科学センター、文化会館の各担当者にお話していただくことになっている。早速ではあるが、まず始めに労働福祉センターからご説明をお願いしたい。

～労働福祉センターの施設紹介～

1 施設の設立経過

労働福祉センターという名称のとおり労働者のための施設であり、文化、教養の向上、福祉の増進のために設置された。

設立当時の昭和51年前後は、人口増加傾向にあり前年比3%～5%、人口では3千～6千人増加した。それに伴い労働人口も増加したことから労働者のための施設を建設したものである。

2 各室の紹介

1階に会議室、和室、窓口のほか、シルバー人材センターや勤労者共済センターの事務室がある。また、2階には収容人数500名の研修ホールがある。

3 主なイベント

労働団体の会合、研修等のほか、平成26年度から2階研修ホールを利用して確定申告の会場として使用されている。

4 特定の利用団体、サークル等があれば団体、サークルの種類、構成人数等特定の利用団体、サークル等はなし。

5 今後、複合化に向けて考えていること

現在の労働福祉センターを廃止することによって設置目的である「労働者の文化、教養の向上、福祉の増進」につながるよう労働者の利用しやすい料金設定等を検討していきたい。

6 その他

他市における類似施設の設置状況だが、本市のようなホール、会議室の貸館業務だけではなく体育施設、文化施設を併設したところが多くある。

具体的に例を挙げると、釧路市の労働者福祉センター、旭川市の勤労者福祉総合センター、他にも室蘭市のサンライフ室蘭、函館市の勤労者総合福祉センター等が類似施設である。

(委員長)

ご説明いただいた内容に関してご質問・ご意見等があればお願いしたい。

(委員)

労働福祉センターの2階ホールは確定申告の会場になっているとのことだが、それ以外の用途として、具体的にどのような事例があるのだろうか。

(工業労政課長)

貸館業務を行っているので、労働団体の会合やメーデーであったりと決まったものもあれば、会社の面接会場等になったりする場合もある。

(委員)

指定管理者側の費用として維持管理費は全く出ないのか。

(工業労政課長)

暖房費等の維持管理費は、指定管理料や利用料金の中から払っていることになる。

(委員)

労働者が使用しやすい施設を望むとのことだが、金銭等の経済的なことなのか、またはそれ以外に仕事終わりでも使いやすいよう時間帯の利便性等を考えておられるのか、現時点で具体的に複合施設として労働福祉センターが組み込まれていった時に、どのようなことが労働者の方々にとって有益なことだと考えておられるのか参考までにお聞きしたい。

(工業労政課長)

労働福祉センターは労働者のための施設としてこれまで運営をしてきた訳だが、今後は複合施設として文化的な役割として使用される部分もあるので、その整合性を取りたいとは思っている。

(委員長)

労働者のためという第一義的なお話があったかと思うが、利用料金の割引は実利的な点から言うと仰るとおりだと思います。ただもっと噛み砕いて言うと、例えば日夜働いている男性が女性と出会う機会がなく、出会いを求めるために飲み会等をしようとしてもなかなか場所もない中で、施設の会議室も17時までしか開いていない。中でも酪農や農業等に従事されている方々が、そういった機会をなかなか得られないことで晩婚化の一因にもなっている。ある自治体では空き家を借り上げて、そこを青年会の場所として提供しているようなケースがある。

このように労働者の仕事の場として会議室が使用されているケースもあれば、前述した労働者の広義の生活の質を高めるような使い方の工夫もある。

(委員)

市としては労働福祉センターを今後、新たに建て直すことにはならないという話になっているのかと思う。ホールや会議室も含めて複合化することによって、共有できる部分は新たにできてくるので、それを管理・運営していくための方法論が問題である。

(委員長)

確定申告の会場となっているのは、存在感として大きい。確定申告だけが用事で来ている方もいらっしゃるかもしれないが、それはそれで来るきっかけにはなっている。年間利用者の50%を占めている確定申告を複合施設に想定できると良いと私は思っている。

(委員)

もともと確定申告はegaoで行っていた。しかし、その後苫小牧市民会館に来ていたが連続的な使用ができない関係等から労働福祉センターに移ったという経緯がある。

(委員)

私も確定申告をしに会場に伺ったことがあるが、やはりご高齢の方々が多いような印象を受けた。何かしら手助けが必要な方やパソコンを得意としない方が多かったように思える。

(委員長)

もしかすると今後、時代が移りゆくにつれて確定申告の様態も変わってくるかもしれない。

(工業労政課長)

この確定申告はご承知のとおり、エレベーターがなく2階ホールで行ったものである。足が不自由な方は税務署の職員の方々に対応して、1階で行ったという経緯がある。

(委員長)

ご質問がなければ、次に交通安全センターのご説明をお願いしようと思うがよろしいだろうか。

～交通安全センターの施設紹介～

1 施設の設立経過

当初、苫小牧地区交通安全協会が建設する予定で進めていたが、補助金を受けることができなくなった。しかし、地区交通安全協会と地元の強い要望により市が、建設費を助成して建設することになった。

当時、苫小牧市が交通事故多発地帯で、何とか交通事故をなくすために、官庁と民衆を結びつけることが大切であり、そのため交通安全センターが必要であるとの地区交通安全協会の考え方に賛意を表し建設することとした。

2 各室の紹介

1階に事務室・倉庫等、2階に免許の更新等に使用される受講ホールがある。

3 主なイベント

交通安全に係る団体の会合や免許更新における講習を行っている。

4 特定の利用団体、サークル等があれば団体、サークルの種類、構成人数等特定の利用団体、サークル等はなし。

5 今後、複合化に向けて考えていること

新たに建設予定の市民ホールの活用については、今後の交通安全センターの方向性として当然検討すべきであると考えている。現状との条件の比較が検討されて、市民ホール利用の優位性（施設の維持・使用費用・利用者の駐車場確保・利用者の要望であるバリアフリー化等比較）が示せれば、地区交通安全協会と利用者双方の理解が得られるものと思われる。今後は、それに向けて関係部・機関との協議が、今後必要と考える。

6 その他

設立当初の考え方によれば、地区交通安全協会が設置を目指した経緯から、今後、交通安全センターを存続（新築・改築）の際には、地区安全協会が主体となって設置するべきものと考えているが、市は、地区交通安全協会の考えも踏まえて検討が必要であり、施設の老朽化に伴う修繕等の費用がかさむことから存続だけではなく、廃止または無償譲渡等に向けた方向で、早期に検討することが妥当と考えている。

ただし、これまでの経過を考慮し、今後の地域の交通安全対策や地域の要望に応えることなどを考えると、代替施設かそれに代わる機能を有する施設を確保することが、市としての取り組む方向であり、簡単に廃止することはできないものと考えている。

交通安全センターは、道内では当市だけが設置し免許更新講習会場として、年

434回 22,413人（平成26年度実績）が受講しているが、他市・地域においては、例えば、市民会館等公共施設を借り上げて実施している例があり、通常は月に10日間程度の開催頻度と聞いている。

仮に、当センター講習業務を市民会館等の施設を利用することとした場合、現在、ほぼ毎日開催の講習回数が減ることが想定され、現在の開催日数から減少することや使用料金など対応の検討が必要になると考える。また、地区交通安全協会事務局の場所についても検討が必要となる。

（委員長）

私の方から基本的なことを確認させていただきたいのだが、道内で苫小牧市だけが交通安全センターを設置しているというご説明だったかと思う。当初は交通安全協会が自前で建物を建てて、交通安全協会として交通安全の啓蒙的な活動をしているということではなかったかと思う。

（安全安心生活課長）

仰るとおりである。交通安全の啓蒙的な活動を含めて、免許更新・講習の場として使用しようという考え方のもとで始まったものである。

（委員長）

交通安全協会が建物の建設が難しくなった中で、市で建物を建てて交通安全協会が施設に入ることになったかと思う。通常ではテナントに入ることになると、テナント料が発生することになるが、ここでは使用料なしで交通安全協会が入っているということになっている。これは市が交通安全に関する取組みが重要であるという認識のもと始まったものであると理解している。

また、指定管理に至るまで、基本的には市が建てた建物に対して使用料なしで協会が使うということになっていたのに対して、指定管理者制度が導入された以降は建物の管理も含めて交通安全協会と委託契約を結んだという理解でよろしいか。

（安全安心生活課長）

指定管理になって初めてということではない。例えば、昭和58年当時から管理委託契約の中で光熱費は出していた。その光熱費も全額出していたわけではなく、交通安全協会と協議した中で決まった額を出していたという経緯があった。

（委員長）

最初に質問させていただいたが、この他にご質問やご意見はないだろうか。

（委員）

今後は複合施設として、交通安全センターが貸室で講習を行ったりすることになると思うが、講習以外の時間帯を貸室とできるような環境になってくれば良いと考えている。

(委員)

交通安全センターは、苫小牧市だけでなく他市町村からも免許更新等に来ているということから、あるべき施設だと考えている。ただ、今後の管理運営として理念をしっかり持っていかないと、このままでいいのかというのは随分と痛感するところではある。

(委員長)

それに絡めて、いただいた資料の中で「施設の修繕費等が嵩むことから存続だけでなく、廃止または無償譲渡を考えていく必要がある」という部分に関して補足でご説明いただけないだろうか。

(安全安心生活課長)

庁内の考え方として、市で持っている公共施設の在り方を検討しており、その検討事項として改築・新築だけでなく、あらゆる方向性を検討していくという意味で記載させていただいている。

また、無償譲渡は「市から交通安全協会へ」である。当初の考え方に立ち戻り、交通安全協会に施設を譲渡し、管理運営を任せることもできるという一つの提案である。

(委員)

交通安全センターが複合施設に入った時に、「交通事故を減らすために啓蒙活動」と「免許更新・講習の場」として2つの機能があると思う。市民のために交通事故を減らしたいということであれば、例えば小中学生のために交通安全協会の方が出向いて、様々な交通安全に関するワークショップを受講することができるような機会を提供できれば良いと考えている。

(安全安心生活課長)

現在は交通安全センターを使って講習だけでなく、交通安全に関する関係者が集って会議を開いたりしているケースもある。また、子ども達に交通安全に関する学習の場を提供しているかと言えば、現状では交通安全センターではそのような催事は実施されていない。しかし、当市では市内の学校に交通指導員が出向く形で交通安全指導をしている。

(委員)

交通安全関係者の会議だと市民の場とはならないと思う。勝手な意見かもしれないが、会議はどこでもできるが、市民が身近に感じられる場所として先ほど申し上げたような使われ方ができると非常に良いと考えている。今、具体的な考え方はないかもしれないが、複合化を考える際にはそのようなことも考慮に入れていただけるようであれば幸いである。

(委員長)

今の議論は非常に重要だと思う。交通安全協会が交通安全センターを作ろうとした経緯は免許の更新ではなく、交通安全の啓蒙である。そういったところに苫小牧市が税金を投入する意味があって、複合施設に入った時に常に人が来るという以外に免許更新ではないところでどのように貢献できるのかがポイントである。

そのような視点も持って庁内でお話していただけるようであれば、複合施設としての相乗効果もさらに高まるのではないのかと思う。それでは、次の科学センターのご説明をお願いしたい。

～科学センターの施設紹介～

1 施設の設立経過

青少年の科学する心と郷土文化への興味を育むために、市が苫小牧市青少年センターとして設置した。また、後に郷土資料室が博物館として、分離したのを機に苫小牧市科学センターと改称した。

2 各室の紹介

大きく科学センターとミール展示館に分かれる。主に科学センターには、各種実験コーナー、プラネタリウム、天体観測室等がある。また、ミール展示館には、ロシアの宇宙ステーション「ミール」と実験モジュール「クバント」の予備機がある。

3 主なイベント

一般市民の方を対象とした星空観望会、苫小牧市の全小学校5年生を対象とした科学センター学習等、様々なイベントを開催している。

4 特定の利用団体、サークル等があれば団体、サークルの種類、構成人数等特定の利用団体、サークル等はなし。

5 今後、複合化に向けて考えていること

施設・設備の老朽化が激しく、プラネタリウム等の更新等を検討しなければ

ならない時期になっている。また、設置目的である青少年の科学的知識の普及と文化の向上をする場、さらには親子で何度も行きたい科学館として複合化を検討していきたい。

6 その他

上述した施設・設備の老朽化についてだが、施設の課題としては、開設から45年が経過し、平成25年度にはプラネタリウム室の雨漏り、平成26年度には天文ドームの天井開閉扉のレール故障である。また、バリアフリー化されておらず、障害をお持ちの方やご高齢の方には不便をおかけしているのが現状である。

設備の課題としては、プラネタリウムは平成2年に更新したアナログ旧式のもので故障が相次ぎ、そのソフトも平成16年から一度も更新されていない。また、展示機器も開館当初の物が多く、実験室の機器類も古いものが多いになっている。

(委員長)

それでは委員の皆様からご質問やご意見があればお願いしたい。

(委員)

科学センターとしては、新しい科学センターとして建替えを望んでいるのか、または複合施設の一部として組む込まれることを希望されているのか。

(科学センター館長)

科学センターは教育委員会で所管している建物である。教育委員会の中には、学校の耐震化や統廃合等、莫大な費用のかかる事業が目白押しである。科学センター単体で建て替えるということは、そういった優先順位を考慮しても難しいことだと考えている。

また、科学センターが現在受けている相乗効果としては、市民会館や文化会館で催事がある際に、空き時間を利用してお客様に科学センターに来て見ていただくことが挙げられる。

(委員長)

敢えて厳しめにご指摘させていただくと、ホール利用者が科学センターに行きたいと思いき、行っているというわけではなく、徒歩圏内に科学センターがあるから立ち寄っていると考えられる。そういった意味では、科学センターが市民会館や文化会館に及ぼしている影響としては現状としては少ないと思っている。

(科学センター館長)

ご指摘のとおりである。ただ、駐車場については市民会館や文化会館で大きな催事があり、駐車が難しい場合もあることから相互に協力し合っている時もある。

(委員)

科学センターとしてどのようなものを作りたくて、必要と考えているかが重要である。複合施設として科学センターを加えるときに様々な難しさがあるが、展示されているものが目につきやすくなるので当然ながら人の流れもできる。ただ敢えて税金を投入して入場料を無料にすることによって、どこまでのものを作るのかは考えていく必要がある。

(委員長)

ご指摘のとおりだと思う。複合するからにはお互いにメリットがなければいけないと思っている。科学センターの方針や取組みについて、他の機能を含めて精査していく必要があると考えている。それでは、時間も押しているので、最後に文化会館のご説明をお願いしたい。

～文化会館の施設紹介～

1 施設の設立経過

本市における文化及び教育の振興を図るために開設した。

2 各室の紹介

1階・地下1階に市民ロビー、展示ホール、楽屋、美術陶芸室、2階に楽屋控室、授乳室、3階に和室、総合練習室、第1～4会議室、4階に第1～第3研修室、文化団体協議会事務局等が入っている。

3 主なイベント

苫小牧市民文化祭、ミュージックキャンプ、高文連各種発表会をはじめ、吹奏楽、ピアノ、軽音楽、民謡、詩吟、演劇、ジャズダンス、バレエ、舞踊等の各種発表会をやっている。

4 特定の利用団体、サークル等があれば団体、サークルの種類、構成人数等

主なものとしては、文化団体協議会が事務局を構えている外に、陶芸 25 人、語学(ロシア、ハンブル)11 人、社交ダンス 6 人、ジャズダンス 57 人、日本舞踊 29 人、ストレッチ 22 人等の多種多様なサークル活動がある。

5 今後、複合化に向けて考えていること

苫小牧市の文化振興を目的として、長年にわたる地道な取組みにより育ててきた文化活動や運営ノウハウが、より良い形で新施設へと継承され、たくさんの市民が気軽に集うことができる施設としていきたい。

6 その他

駐車場については、ホールの利用がある場合等は不足することが多く、対応に苦慮しているのが現状である。

(委員長)

それでは、ご質問やご意見があればお願いしたい。

(委員)

今まで利用している団体や文化会館で使ってきたものをよりよく継承できるようになっていければよいと考えている。

(委員長)

おそらく最初の方の検討委員会で発言させていただいたのだが、複合施設で1番最初に目指さなければいけないのが、「脱管轄・脱所管」である。所管の問題があつては、複合施設にする意味が全くない。それには組織や管理主体のことが関わってくると思うが、文化会館は市民活動が活発に行われている施設として意義は非常に重要なものだと捉えているが、多様な活動があるものをどのようにマネジメントしていくかはこれから考えていかないといけない。

(委員)

先ほどの労働福祉センターは、老朽化により使用が難しくなっているので、施設をなくす方向で話が進んでいるが、文化会館は本当になくす必要があるのだろうか。様々な文化活動が行われている中で、実際に利用している側としては施設をなくさないでほしいという思いもある。

(委員長)

一般的に全国的な公共施設の在り方として話し合われているのが、機能が重複している施設を持っていることによる財政的な負担を将来的に軽減していこうということである。これから苫小牧市の人口減に伴う税收減の中で、文化会館を残して新しい建物を建てても、いずれは文化会館も建替えが必要になってくる。その時に複合施設と文化会館があると減少していく税收の中で、その2施設を私たちの子どもや孫の世代まで残していくことは財政的に負担になる。

今のやり方やニーズも大切なのだが、一方で現実的なことを考えると施設をコン

パクトにしていく必要がある。また、そういった中で新しいアイデアが生まれる可能性もある。

(事務局)

文化会館の存続に関するご質問であるが、施設の老朽化もそうなのだが、耐震補強の問題もあるのが実際のところである。そういった施設を直して数億円規模を投入するよりも、市民会館等と一緒に建替えをした方が財政的にも負担を軽減できる。

したがって、文化会館が全くなくなるというわけではなくて、他の施設と一緒にあってどうなっていくかはこれからの議論になる。

(委員)

本日、ご説明いただいた施設を見ると会議室が非常に多い。それがパーティションによって機能が変わっていくとか、会議室だけでなく文化団体も使えるようなものになると良いと思う。

それと道内でも最近 MICE という言葉をよく聞くが、実際には数年後の会場は全くないという状況である。数千人規模の国際会議をやったり、医師会を行ったりできる場所もない。そういった他都市の状況も踏まえて、苫小牧市でもそういった会議ができるような場所を提供できればよいと思っているし、複合施設として会議室でも使えて展示にも使えるようなものができればと考えている。また、今回の複合対象施設には駐車場がどこにもないというのは問題である。駐車場が必至の時代なので、サービス業の今後の在り方を含めて検討していく必要がある。

現代では、舞台上のことも基本的な器具・備品さえあれば簡単にできてしまう。ほとんどのものは持ち込みであり、舞台照明も LED となり電気代も安く済むようになっていく。

(委員長)

これからも議論は続いていくと思うが、新しくできることや新しいお金のかけ方に対して、これまで慣れ親しんだ環境がある中で、現実的には予算の問題が出てくる。例えば自宅の設計の際にも最初は夢が広がっているが、予算であきらめることも多いと思う。これから優先順位を考えていくことになるが、大事なことは優先順位を考えると、現状あるものを切り捨てていくということではなく、コンパクトになる時に新しく何ができるかポジティブな考え方である。具体的には基本計画の中で話し合うことになると思うが、これは重要な議論になってくると考えている。それでは、ご説明いただいた施設担当者の皆様、本日はありがとうございました。

本日は4つの複合検討施設における、ご説明をしていただいた。本日の議論を踏まえて私の方で整理をさせていただきたい部分がある。

これは具体的には基本計画での話になると思うが、今後検討すべき複合施設を解

体して機能ベースで整理するとどうなるか考えてみたところ、主な機能としては4つあると考えている。それは鑑賞、活動、窓口、展示である。

例えば、鑑賞は演奏会やコンサートである。活動は市民のサークル活動等が挙げられる。今の既存施設がやっていることを機能ごとに分けると、この4つくらいになってくると思う。

まず私たちの頭の中で、今ある施設の単位で数を考えるのではなくて、新しい施設として、4つの機能で1つの施設をイメージすることが大事だと紹介していただきながら思った。この考え方を基本に持つと、所管ベースの考え方にはならないと思う。

前回にワークショップの話も出てきたと思うが、これも既存施設の部会ではなくて、鑑賞、活動、窓口、展示の切り口から部会をイメージする。例えば、鑑賞部会というとおそらくホールが主になってくると思うが、窓口でいうと安全福祉部会、展示部会という、ライブラリーやギャラリーも機能の一部に入ってくると思う。

本日の議論とご説明を踏まえて今後、私が提案していきたいのは既存施設の組み合わせではなくて、1つの施設として鑑賞、活動、窓口、展示という機能を考えていくことである。それを具体的にどのような内容で、どのようなことをしていくというのはこれから重要な議論になっていく。例えば、科学センターが独特の性質を持っているので、本当に全面的に複合化する必要があるのかも考えていく必要があるし、もしかするとライブラリーのような機能としての連携もあるかもしれない。

まとめの代わりとして、今言ったようなところを今回の検討委員会の認識として整理させていただければと思う。それでは、特にご意見やご質問がなければ、これで今回の検討委員会を終わりにしたい。